HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(8)
著者	竹田，正直；TAKEDA，Masanao
引用	開発論集(102)：59-77
発行日	2018-09-28

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

開発論集　第102号　59-77(2018年９月)

北海道における中小企業家同友会の教育(8)

竹　田　正　直*

はじめに

日本経済において，周知のごとく，中小企業の比率は，企業数においては圧倒的であり，従業員数でも３分の２以上を占めている。だが，北海道では中小企業の比率はさらに高い。中小企業庁の調査によれば，日本全体では，中小企業の比率は，企業数で99.7％，従業員数で70％，大企業の比率は企業数で0.3％，従業員数で30％である。北海道では，中小企業の比率は，企業数で99.8％，従業員数で85％であり，大企業は企業数で0.2％，従業員数で15％であり，北海道の中小企業の比率は，企業数でも業員数でも日本全体より高いのであるが，とりわけ，中小企業の従業員比率が高く，北海道の中小企業の道民の経済と生活への影響は，一層高いのである。(注1)

日本及び北海道の経済に甚大な影響を及ぼす中小企業の健全な発展をめざす有力な経営者団体として中小企業家同友会全国協議会（中同協）があり，北海道ではこの中同協に加盟しているのが，一般社団法人北海道中小企業家同友会（北海道同友会）である。中同協も，北海道同友会も，1969年に結成され，来年，2019年に創立50周年を迎える。創立50周年に向けた中同協第50回定時総会議案が，2018年６月５日に発表された。(注2)

なお，中同協の加盟数は，2018年４月１日現在，46,363名で，９年連続最高会勢を達成し，来年の50周年に５万人達成を目指している。各都道府県の同友会の現勢のなかで，第１位は，北海道：5,753名，第２位，愛知：4,151名，第３位，広島：2,582，第４位：大阪：2,357，第５位，東京：2,224，である。

北海道同友会は，会員数でトップを走っているが，大都市の東京，大阪の２倍以上は驚異的会員数と言える。いろんな要因が考えられるが，私は重要な要因として体系的な「共育活動」を上げることができると思う。まさに，北海道における発展方向の創出に関する基礎的研究の推進にさいして，道内の企業数と従業員数の圧倒的部分をしめる中小企業の研究は欠くことができない。この組織的発展のかなめとなっているのが，「共育」をキーワードとした社員教育や経営者の自己教育，とくに，幹部養成の「同友会大学」の教育，さらに，「経営者大学」の活動である。

筆者は，同友会大学の歴史的分析と関連付けて，本誌の前号，第101号で，「共育活動」の構

*（たけだ　まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員，（北海道大学名誉教授）

造化を以下のように試みた。

１つには，「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには，第１に，講師と受講生との間の共育活動で，圧倒的には講師が教える活動であるが，受講生から講師が学ぶ活動もある。第２は，受講生同士の相互共育活動であり，授業中のみならず授業外での相互活動もある。第３は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と講師や受講生相互の共育活動である。

２つには，「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには，第１に，受講生を送り出した企業での共育活動があり，第２は，受講生の家庭での共育活動であり，第３に，卒業後，全員が参加する同窓会での共育活動である。(注3)

本号での第11期，第12期の同友会大学の共育活動を分析する際に，この構造の精緻化をさらに試みたい。

また，前述の中同協第50回定時総会議案において，昨年９月に行われた共同求人・社員教育合同委員会で「真に人を生かす経営とは」をテーマに両委員長から，「採用し，共に育つという共同求人と社員教育を実践すること」が提起されたと述べている。さらに，「企業内に『共に育つ』環境づくり」や「だれもが生き生きと働き能力を発揮できる企業となるために『共に育つ』社風づくり」を課題として提起している。また，「社員教育活動を『企業のための人材育成』にとどめず，『人が育つとはどういうことか』など，目線をあげて問いかけあい，社員と社長がかかわることで社長自らも変っていく『共に育つ』姿勢を持つことが大切です。そのためにも『共育』の理念を学習し，会内に浸透させ，学校や地域でも共に育ちあう土壌をつくる連携した活動として取り組みましょう。」と提起した。(注4)

総会方針案では，「共育」理念の学習とともに，「共に育つ」環境づくりを強調している。これは，筆者の構造で言えば，「間接的共育活動の」第１，受講生を送り出した企業での共育活動であるが，ユネスコの学習宣言を共通に学んでいる同友会にとって，もっと，深く，広い意味があるかもしれない。

第１章　北海道中小企業家同友会第11期同友会大学

⑴　第11期同友会大学の日程と講義概要

第11期同友会大学は，1986年１月９日㈭に開校式が行われ，同年４月25日㈮まで，北海道同友会事務局がおかれていた第１ビル（札幌市中央区北４条西16丁目北向）で，毎週，火曜と木曜の夜６～９時，30回の講義と５月８日㈭夜６～９時の卒業式が行われた。(注5)

開校式は，１月９日㈭，雪の降る中，第１ビルの北海道同友会会議室で行われ，関口功四郎学長（社員教育委員長）の祝辞その他の祝辞があり，第11期受講生53名の受講生（うち女性３名）を代表して，㈱宇佐美商会の澤口敦子さんが，決意表明を述べた。

「80年代も折り返し点を過ぎ，今私達を取り巻く社会環境は，相変わらず厳しい状況にありま

す。 まさに，強い者はより強く，弱い者は，消滅してゆく時代といえましょう。

社会は，めまぐるしく変化し，情報は様々な手段によって私達のまわりをうずまいております。このような状況のなかで私達は真実を知り，本質を見抜く力を養い，的確な判断力と豊かな教養を身につけなければなりません。 そして北海道という地域で生きているという自覚を持ち，地域に根ざした産業や企業を考えなければならないと思うのです。

また今回は女性の受講生が私を含め 3 名と過去最高だそうです。これは女性に対する期待がますます高まっているからだと感じ,身の引き締まる思いでございます。 今日から私達は同友会大学，第 11 期生として学んでまいります。この機会を得られましたのは，経営者や同僚の理解と協力のおかげと深く感謝しております。 この栄えある機会を十分に生かし同友会大学の存在と意義を理解するため，日々自己啓発に努めることを決意し，ここに表明致します。 1986 年 1 月 9 日，同友会大学第 11 期生代表，㈱宇佐美商会　澤口敦子」(注6)

じつに，行き届いた決意表明である。中小企業をとりまく社会状況にふれ，同友会大学で学ぶ意義にふれ，北海道の地域と，女性最多受講のこと，経営者と同僚への感謝，自己啓発の決意で終わっている。

第 11 期の単元Ⅰ～Ⅵのうち，第 10 期と同じテーマは，第Ⅰ単元「経済と中小企業」，第Ⅲ単元「経営と法律」，第Ⅴ単元「科学技術論」，の 3 つの単元である。

第 11 期の単元構成で最も特徴的なことは，第Ⅱ単元「北海道論」を新設したことである。講義のテーマと担当者は，「北海道の歴史～近代からの歩みをたどる～」担当：北海道大学永井秀夫教授，「もうひとつの北海道史～北方少数民族について」担当：北海道有朋高校田中了教諭，「北海道の風土と文学」担当：藤女子大学小笠原克教授，である。

第 10 期の第Ⅲ単元「企業会計の基礎知識」が，第 11 期では，「経営分析」と単元テーマが変わり，新たな講師が加わった。「経営分析の ABC」と「経営分析のポイント」の 2 回の講義を池端昭二税理士が新たに担当している。他の二人は，第 10 期と同様である。

第Ⅱ単元の新設により，これまで同友会加盟企業の代表取締役が中心になって交代して担当してきた第 10 期までの第Ⅳ単元「現代営業幹部論」がなくなった。また，第 10 期の第Ⅵ単元「中小企業幹部論」を，「人間と教育」に変更し，人間と教育を一層広い視野で把握できるようにし，その後，この単元名称は長く続き，今日に至っている。

第Ⅵ単元「人間と教育」の担当者は，①「幹部に必要な現代のマナー」担当：北海道同友会西谷博明事務局長，②「教育とは何か～社会と教育の発達の歴史～」担当：北海道大学竹田正直教授，③「人間と話し言葉～話し言葉の再確認～」担当：㈳北海道邦楽邦舞協会（元 HBC アナウンスアカデミー所長）平沢秀和事務局長，④「知恵ある人間に育つために」担当：札幌学院大学方波見雅夫教授，⑤「部下をどう教育するか～現代人の社会心理組織の活かし方～」担当：北海学園大学後藤啓一教授，⑥「部下をどう教育するか～目標必達の社風をつくりあげるために～」担当：㈱共同印刷木野口功社長，である。廃止となった第 10 期の第Ⅳ単元担当者のうち，木野口社長のみが残り，第 11 期の第Ⅵ単元「人間と教育」の担当者として加わったので

資料 1　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 11 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
’86 1 月 9 日(木)	**開　校　式** 学長あいさつ，社員教育委員会の紹介，ガイダンス 班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
1 月 14 日(火)	社会発展史と経済学	北海道教育大学 教　授　三好　宏一氏
1 月 16 日(木)	北海道経済の歴史と産業構造の特徴	北海道大学 教　授　山田　定市氏
1 月 21 日(火)	戦後日本経済と中小企業	北海道大学 教　授　富森　虔児氏
1 月 23 日(木)	世界の政治・経済情勢の焦点	北海道大学 助教授　佐々木隆生氏
1 月 28 日(火)	現代の情勢をどう理解するか　～グループ研究～	北海道大学 教　授　森　　杲氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
1 月 30 日(木)	北海道の歴史　～近代からの歩みをたどる～	北海道大学 教　授　永井　秀夫氏
2 月 4 日(火)	もうひとつの北海道史　～北方少数民族について～	北海道有朋高校 教　諭　田中　　了氏
2 月 6 日(木)	北海道の風土と文学	藤女子大学 教　授　小笠原　克氏
単元Ⅲ　経　営　と　法　律		
2 月 10 日(月)	労働法の基礎知識	弁護士　伊藤　誠一氏
2 月 13 日(水)	民・商法の基礎知識	弁護士　中村　　仁氏
2 月 18 日(火)	債権の管理と回収(1)	弁護士　向井　清利氏
2 月 20 日(木)	債権の管理と回収(2)	弁護士　向井　清利氏
2 月 25 日(火)	日本国憲法の特徴と今日的意義	弁護士　郷路　征記氏
単元Ⅳ　経　営　分　析		
2 月 27 日(木)	経営分析の ABC	税理士　池脇　昭二氏
3 月 4 日(火)	経営分析のポイント	税理士　池脇　昭二氏

講義時間；18：00〜21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
3月6日㈭	危ない企業の見分け方	㈱帝国データバンク 札幌支店長　大宮　辰男氏
3月11日㈫	経営分析の事例研究　〜グループ研究〜	税理士　上村　昭紀氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
3月13日㈭	科学と人間　〜自然科学の発展と人間生活〜	北海道大学 教　授　田中　一氏
3月18日㈫	社会の発展と技術の歴史	北海道大学 助教授　吉田　文和氏
3月20日㈭	コンピュータの基礎概念　〜情報化時代への対応〜	北海道大学 教　授　青木　由直氏
3月25日㈫	中小企業の技術開発　〜その発想と具体例〜	北海道電気技術サービス㈱ 社　長　向井　隆氏 ㈱光合金製作所 社　長　井上　一郎氏
3月27日㈭	科学技術の発展と今日的課題　〜グループ研究〜	北海道大学 助教授　赤石　義紀氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
4月1日㈫	幹部に必要な現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
4月3日㈭	教育とは何か　〜社会と教育の発達の歴史〜	北海道大学 教　授　竹田　正直氏
4月8日㈫	人間と話し言葉　〜話し言葉の再確認〜	㈳北海道邦楽邦舞協会 事務局長（元HBCアナウンスアカデミー所長） 平沢　秀和氏
4月10日㈭	知恵ある人間に育つために	札幌学院大学 教　授　方波見雅夫氏
4月15日㈫	部下をどう教育するか(1) 〜現代人の社会心理と組織の活かし方〜	北海学園大学 教　授　後藤　啓一氏
4月17日㈭	部下をどう教育するか(2) 〜目標必達の社風をつくりあげるために〜	㈱共同印刷 社　長　木野口　功氏
総　括　講　義		
4月25日㈫（ママ）	中小企業の未来と私たちの課題 〜同友会大学で何を学んだか（グループ討論）〜	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

※　卒業式　　5月8日㈭

ある。

なお，単元テーマが変わっていない第Ⅰ単元「経済と中小企業」，第Ⅲ単元「経営と法律」，第Ⅴ単元「科学技術論」，の3つの単元は，担当者は殆ど第10期と同様である。第Ⅰ単元と第Ⅲ単元は，単元内での順序が若干変化しているが担当者は同じである。第Ⅴ単元は，第10期の「現代の技術革新はどこまで進んでいるか」の北海道大学是永純弘教授から，以前にも担当していた北海道大学吉田文和助教授に戻っている。また，「中小企業の技術開発～その発想と具体例～」は，北海ダンロ㈱佐藤雄一専務から，㈱光合金製作所井上一郎社長に変更になっている。

⑵　第11期同友会大学の受講・卒業生の特徴と感想

まず，第11期受講生は53名（うち女性3名）という，全体としても，女性の受講生としても多数の受講生が特筆される。この背景には。北海道同友会が，第11期同友会大学開講の前年，1985年11月に創立16周年を迎えて，1985年11月27日の集計で，会員総数4,786社と5千名を現実的目標にしうるまでに発展したことである。地区別の第1位は札幌1,642社であり，以前，大久保尚孝専務が，同友会大学へ安定的に受講生を送り続けるためには，札幌で1千社以上の入会がなければと言っていたが，その数を大きく超える発展である。第2位は帯広507社，第3位旭川490社，第4位小樽428社，第5位函館303社と続く。道央圏の苫小牧227社，千歳・恵庭107社，江別61社などに札幌，小樽を加えると，道央圏は2,238社となる。(注7)

受講生にたいする卒業生の割合は，これまでは90％（第5期生）が最高だったが，第11期は92.5％でこれまでのトップとなった。また，卒業生のうちの皆勤賞の割合も，これまでの最高は62.5％（第10期生）だったのが，第11期生は，77.6％とこれまでのトップになった。この2つの高い割合は，その背景に受講生各人の学びと卒業への強い自覚とともに，受講生相互の連帯，共育活動がある。

また，受講態度が実に良かったというのも第11期の特徴である。講師が，「過去最高の受講態度であった。大学の学生を相手に講義をするより，ずっと手応えがあった。」と高く評価している講師もいた。しかし，全体の平均点は，かんばしくなく，62.7点でこれまでのなかで下位から数えた方が早いとのことである。そのせいもあり，成績優秀者は，努力賞の田中裕子氏（㈱ナニワ）のみである。(注8)

受講生自身の受講についての感想を記しておきたい。

「長い人生，わずか四ヵ月でしたが，家族をはじめ沢山の方々の協力で卒業出来ましたことは，人と人とのつながりの大切さと知識は『物の見方，考え方』まで人間を変えるということを再認識させられました。」（田中裕子氏，㈱ナニワ）(注9)「印象に残る四ヵ月でした。良いと思ったレポートの点が悪く苦労した卒論が良かったことに驚きました。……これからも自己のベストをつくして，頑張りたいものです。」（本田義則氏，㈱丸紳シャルマン）(注10)

美唄から往復140 kmの夜間通学ながら，無欠席で皆勤賞をうけた白木和広氏（㈱東穂北海道工場）の感想は特に貴重である。「講師の格調高く奥深い講義，暖かい仲間の思いやりが，私の

資料 2

答　　辞

最終の講義が終了した瞬間，思わず万歳がでたほど解放感に浸った最終日，長いようであっという間にすぎ去った 4 カ月間でした。

本日，ここに無事卒業式を迎える事ができましたことに，49 名の第 11 期卒業生は感激を新たにしています。第 1 回目の講義の日は，札幌は近年にない猛吹雪で会社のある大谷地から地下鉄にたどりつくまで何度も立往生し，まるで私達の前途を暗示するかのように思えました。しかし，三好先生から始った諸先生の講義は経済のしくみ，矛盾点，疑問点がまるで推理小説のなぞ解きのごとく，つぎつぎと解明されていく大変面白いものでした。

又，今回初めて北海道論を取り入れて下さったのですが，北海道の歴史，風土を学ぶことにより，以前にも増して北海道に愛着を覚え，日本における北海道の重要性を再認識致しました。ぎこちなかったグループ討論も回をかさねる毎に内容のあるものに変化し，それぞれのグループの持味が発揮されました。今度こそは余裕をもってレポートを書こうと決意しながら結局締切日ぎりぎりまで筆が進まず自分の意志の弱さをくやみ，あせる連続でした。しかし，レポートを書きあげた時は何とも云えない解放感と充実感がありました。

今日，中小企業を取りまく経営環境は非常に厳しいものがあります。中小企業に働らく多くの仲間達と知りあい，連帯感を強めたこの 4 カ月間の成果をいかし，共に学び育ちあう同志として今後も交流を深めて行きたいと思います。

日本経済の真の担い手である中小企業，それを支える一員として誇りと自覚をもって人間的成長をめざして進むことをここに決意致します。

卒業式にあたりまして，ご臨席の皆様からいただきましたねぎらいと励ましのお言葉に感謝しますと同時に，一言一言がひしひしと伝わり身のひきしまる思いでございます。

最後に，卒業生一同に代り，私達にわかりやすい言葉でやさしく熱心に講義下さいました諸先生，勉学の機会を与えて下さいました経営者の皆様，夜おそくまでお世話下さいました事務局の皆様，笑顔で送り出してくれた職場の仲間達に心から感謝すると共に今後も一層の御指導御鞭撻を賜わりますようお願い申し上げまして答辞と致します。

1986 年 5 月 8 日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第 11 期代表
株式会社ナニワ
田　中　裕　子

心を奮い立たせてくれました。『おかげさまで』と言う感謝の気持ちでいっぱいです。『知は力なり』と言う事も教わりました。同友会大学で得た知識が私自身及び会社の力となり，〝共に育つ〟ように努めて行きたいと思っています。」(注11)

「自分の生きざまを問う良い機会であり，多少の自信と重い責任を感じています。今後は地域と会社の繁栄，そして自分のためにも頑張り続けたいと思います。」（福屋幸治氏，北海道林友観光㈱）。「当社においての自分を見出し何をしなくてはならないかを少しでも心に止めること

が出来，非常にプラスになったと感じています。　色々な業種の人達との出会い，グループ討議の中では多様な考え方を吸収し，尚かつ友達にもなれました。」（伊藤嘉英氏，共和総合管理㈱）(注12)

卒業式の最後に「答辞」を読んだのは，努力賞を受賞した田中裕子氏（㈱ナニワ）で，第1回，開校式が猛吹雪で「私達の前途を暗示するかのよう」だったが，諸先生の講義は，まるで推理小説のなぞ解きのごとく面白く，とくに，今回初めて開講された「北海道論」を学び一層北海道に愛着を覚え，重要性を再認識したという。グループ討議も回をかさねる毎に内容あるものに変化した。多くの仲間と知り合い，連帯感を強め，共に学び育ち合う同志として今後も交流を深めたい。さらに関係者への謝辞を述べ，ユニークさと心のこもった行き届いた答辞となっている。(注13)

レポートや卒業論文の平均点はともかく，受講生自らの第11期での学びは積極的に受け止め，仲間と共に学び，今後の学習継続への自覚や企業貢献のみならず，地域社会への貢献をも視野に入れた豊かな成長を感じさせるものである。

⑶　第11期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

1986年5月8日㈭夜6～9時の卒業式では，まず，同友会大学関口功四郎学長（シオン・樹脂工業㈱社長）が，「学んだ感動を胸にひたむきに生きよう！」との祝辞を述べた。

関口学長は，まず，同友会大学での学びのメリットとして，従来の生き方に反省が加えられたこと，さらに，家庭での信頼関係が密になったこと，会社では，同僚と部下に刺激をあたえたこと，「何よりも良かったことは，皆さんが心底からやり抜いた満足感に浸り自信を深めたことだと思います。最終講義の終わった時に，期せずして〝万才〟の声が起こりました。同友会大学史上初めてのことですがそれだけに『やったゾ！』という感動が大きかったと思います。」さらに，この成長の喜びを胸に大きなビジョンに向かって，「本当の勉強はこれからです。」継続して学んで行きましょう，と呼びかけている。(注14)

北海道同友会三浦隆雄代表理事（㈱サンコー社長）が祝辞を述べ，「今日の栄えある卒業は，みなさんの努力はもちろんですが，経営者・先輩・同僚・後輩，そしてご家族の皆さんが支えてくれたことを忘れることはできないでしょう。……我々経営者も真剣に勉強を続けています。皆さんも49名が手を取り合って人格の形成や社業の発展のために励んで下さい。」

講師陣の祝辞に入り，まず北海道大学教育学部教授竹田正直が，この大学で得たものとして，①専門的な高い知識と課題を調べる方法を学んだこと，②素晴らしい仲間を得たこと，49名の周りにいる人も宝である。③家庭や周囲の方の一層の尊敬を得たことである。第11期生をお祝いするかのように同窓会の記念講演会もあるので卒業を新たなスタートと捉えて欲しい。札幌学院大学人文学部方波見雅夫教授は，卒業生の56％は，35歳以上で，労働実態調査では35歳，45歳，55歳で体力的にガクンとくるので健康に留意し，「休日恐怖症」や「休日神経症」のストレスにも注意し，ときには，桜の下でコンパをして語り合って欲しい。北海道大学経済学部

森杲教授は，学んだ成果はすぐには現れず，同友会大学での勉強は，知識の上積みではなく社会的問題の広がりをつかみ，解決のために色々な方向に関心を持つようになることで，今後の〝物の見方・考え方〟の広がりを大切にしてほしい，と述べた。㈱帝国データバンク大宮辰男札幌支店長は，足場を作るとハードルは超えやすくなる。そのためにも仕事に追われる人間でなく仕事を追いかける人間になってほしい。講師の一人で，最終講義を担当している大久保尚孝専務が，『同友会大学第 11 期生記録集，〝連帯〟』に祝辞を寄せているが，卒業式当日は欠席したので後に追加したと思われる。大久保専務は，「新しい歴史を創る戦士たち」のテーマで，〝人間としての尊厳にかけて，自主的に学んだ戦士たち〟これが，わが同友会大学の卒業生を呼ぶにふさわしい称号で，北海道各地で意気高く奮闘し，新しい道を切り開くことを期待している。

同友会大学岡村敏之同窓会長（ダイヤ冷暖房工業㈱常務）が，ほとんどの卒業式にでているが，今日ほど仲間意識にあふれた卒業式は初めてといい，同窓会への加入，同窓会の夏・冬 2 回の研修参加，自らの資質向上と職場に学ぶ気風をひろげること，卒業式は通過点に過ぎず，学んだことを仕事に活かし，自分を変革することこそ勝負と訴えた。(注15)

卒業式での成績講評は，いつもは大久保尚孝専務理事が行っているが，第 11 期卒業式では，大久保専務が急用による欠席のため，西谷博明事務局長が代わって行った。西谷事務局長は，第 11 期生は，「必ず卒業しよう！」との強い連帯感があったと，まず指摘し，男女雇用機会均等法成立の年にふさわしく女性の受講生がこれまでで最も多く，53 名の受講生中 3 名で，かつ，揃って卒業したこと，卒業率と皆勤率も最も高く，卒論提出 1 週間まえに〝ご苦労さん会〟を開く班など余裕を持って卒業したことの積極面を評価した。その上で，平均的な成績の低さを指摘した。

講評で笑いを誘ったのは，同窓会の 5 周年記念講演会のチケット販売に取り組み 100 枚もひろめたことで，「卒業が決まってない，つまり同窓生になるかどうかわからないのに（笑い），大変熱心に取り組んでいただいた」と述べたときである。(注16)

『北海道同友会ニュース』によれば，5 月 27 日，厚生年金会館で定員 600 名の同友会大学同窓会創立 5 周年記念教育講演会が半年前に企画され，「同友会大学講師の竹田先生（北大教授）の紹介で笠原先生にお願いすることにし，早速実行委員会を組織」したが，この実行委員会に第 11 期生も参加したのである。笠原紀久恵先生は，苫小牧市日新小学校教諭で，『友がいてぼくがある』という，松本正夫君とクラスの子どもたちの珠玉のような実践を記した著書があり，私は北大のゼミなどにも招いていた。第 11 期生の努力もあり，当日は満席の 610 名の参加で一部実行委員は立つことになった。そして，報告ニュースの見出し「感動の涙が頬をぬらして」とあるように，子どもたちの〝共に育つ〟実践に 2 時間にわたって感涙にむせんだことが報じられている。(注17)

第 2 章　北海道中小企業家同友会第 12 期同友会大学

⑴　第 12 期同友会大学の日程と講義編成

第 12 期同友会大学は，1986 年 7 月 11 日㈮ 18〜21 時，第 1 ビルで，開校式を迎え，卒業式は，11 月 7 日㈮に，第 1 ビルで行われた。

第 12 期の受講生は，42 名（うち女性 1 名）で，これまでの第 2 期生 39 名，第 1 期生 40 名，に次いで，３番目に少ない受講生数である。開校式で決意表明をおこなったのは，高見良二氏（白馬堂印刷㈱）であった。高見氏は，北海道の厳しい経済状況のなかで，とびかう情報の渦にふれて，「大きな視野で物事の本質を見きわめる能力」を持たなければならないし，〝企業は人なり〟といわれるように私達一人ひとりの成長なくして企業の繁栄はないと述べた。「私達は，業種や年齢の垣根をこえ共に援けあい，そして本当の意味での自己改革を目指す」と力強く決意を表明した。(注18)

単元構成と単元テーマは，第 11 期で大幅な改革があったので，第 12 期は，単元構成もテーマも第 11 期と全く同じである。各単元の内部はそれぞれ若干の違いがある。

単元Ⅰ「経済と中小企業」では，第 11 期で，「北海道経済の歴史と産業構造の特徴」担当：北海道大学山田定市教授が，第 11 期から新設された単元Ⅱ「北海道論」に移り，「北海道経済の過去・現在・未来」のテーマで，単元Ⅱのトップ講義を担当している。単元Ⅰの山田教授のぬけた後には，北海道大学眞野脩教授が「経営環境の変化と中小企業」のテーマで第 4 講義を担当している。つまり，単元Ⅱ「北海道論」の他の三人の講師はかわらないので「北海道論」を更に充実したことになる。

単元Ⅱ「北海道論」が 1 講義増えた分，単元Ⅲ「経営と法律」の「民・商法の基礎知識」中村仁弁護士の講義が無くなった。他の担当講師は同じだが，「日本国憲法と教育基本法を読む」郷路征記弁護士の講義が単元Ⅳのトップを担った。

単元Ⅳ「経営分析」は，４講義のうち池端昭二税理士が 2 講義，上村昭紀税理士が 1 講義，大宮辰男帝国データバンク札幌支店長が 1 講義である。然し，上村氏と池端氏が担当講義をチェンジして，第 12 期は，「経営分析の ABC」を上村氏が，「経営分析の事例研究〜グループ研究⑵〜」を池端氏が担当している。多様な経営分析のグループ研究を学ばせる狙いと思われる。

単元Ⅴ「科学技術論」5 講義のうち，１講義だけがテーマも担当者も代わっている。前回は，「中小企業の技術開発」を北海道電気技術サービス㈱向井隆社長と㈱光合金製作所井上一郎社長が共同で担当していたが，これに代わって，「バイオテクノロジーとはなにか〜現状と問題点〜」を北海道大学実吉峰郎助教授があらたに担当している。

単元Ⅵは，5 講義ともテーマも講師も殆ど第 11 期と同じである。方波見雅夫教授の講義名が「知恵ある人間〜」から，「〝知恵〟のある人間〜」に変わっているのみである。しかし，講義順は入れ替えがある。北海道大学教授竹田正直「教育の本質とは何か〜」が単元のトップになっている。後半の 3 人の講義順の入れ替えもあるが，これは講師の日程上の理由と思われる。(注19)

⑵　第 12 期同友会大学の受講・卒業生の特徴と感想

前述のように，受講生は 42 名で，卒業は 36 名，でレポートや卒論の平均点は 63.2 で，これまでの 12 期の中では中位であるが，その後今日までを見ると，これはかなり上位の平均点である。皆勤賞 21 名，卒業生に対する割合 58.3%も 12 期までは中位である今日まで見ると上位である。西谷博明事務局長によれば，12 期の入校式に，足に痛々しい包帯をして松葉杖姿での受講生がいたので，この受講生を中心に積極的な受講生が多いと感じたが，「まじめではあるが非常にもの静かで積極性に若干欠けると思われる」とのことである。それが，皆勤賞以外の特別表彰がいない，つまり，最優秀賞，優秀賞はもちろん，努力賞もいないという，12 期までの同友会大学史上初めてのこととしてあらわれている。卒論前までは，努力賞の可能性が数人いたが，卒論で失敗している。」(注20)

受講生自からの感想をみてみよう。

白馬堂印刷㈱西川洋成氏は，子どものころから自然科学が好きで，同友会大学の「講義のすばらしさに感動し，思わず涙がこぼれたほどでした」と述べている。今後も好奇心，問題意識，感動を失わずに努力していくという。(注21)

大西工業㈱大西正美氏は，あまり目立つことが得意出なかった自分が，「同友会大学で学ぶうちに，自分が学んだことをぜひ同じ鉄工団地の仲間にも伝えたいと考えるようになりました。いま，同友会大学丘珠分校を作るべく実際にいろいろ手配している」という。(注22) これまで，共育活動の間接的な共育として，会社の仲間に学んだことを伝えることはあったが，地域の別な企業の仲間に広げ，さらに「同友会大学丘珠分校」をとまで考えている。

「お父さん，今日も勉強がんばってね」と 1 年生の末娘に励まされて机に向かう 4 ヵ月だった，と言うのは，北海道通商㈱の平沢義征氏である。そして，皆勤で卒業出来たのは，社長や同僚の協力のおかげという。「何よりも大勢の人達と友達になれた事，何にも勝る財産で」今後もこの財産を大切にしてゆきたいと考えている。(注23)

受講生が書いたレポートを息子が読んで，「お父さん，この書き方だと落第だよ」といわれ，書き直してもう一度みせると，「5，60 点は採れるだろう」と〝太鼓判〟（？）をおされたという，実に親子の微笑ましい素敵なエピソードを発表してくれたのは，㈱多加良屋の石田和男氏である。(注24)

同じように，親の学ぶ姿がこどもに影響をおよぼしている状況を，「私は小樽から通いました。……私がレポートを書いていると，子どももノートをひっぱりり出して来ました。『勉強しろ！』と言わなくとも自分のうしろ姿で子どもの教育をすることができるものなのだと，うれしい驚きを感じました」と，㈱第 1 エンジニアリングの米田正行氏が書いている。(注25)

北海道林友観光㈱長尾五志氏は，「終わる頃になって，やっと学ぶ楽しさを知りはじめました。格調高い講義を受け，……厳しい社会を生き抜くためには，物事の本質を見極め，いかにあるべきかを考えることが大切であることを思い知らされました。今後社会や企業の中で，同友会大学で育んだ知力を活かせるように進んでいきたいと思います」と決意している。(注26) ㈱日本

資料 3　北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 12 期）

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
’86 7 月 11 日(金)	**開　校　式** 学長あいさつ，教育委員会の紹介，ガイダンス 班編成の発表，性格・職業興味検査	
単元Ⅰ　経　済　と　中　小　企　業		
7 月 14 日(月)	社会発展史と経済学	北海道教育大学 教　授　三好　宏一氏
7 月 18 日(金)	世界の政治・経済情勢の焦点	北海道大学 助教授　佐々木隆生氏
7 月 21 日(月)	戦後日本経済の発展過程と当面の課題	北海道大学 教　授　富森　虔児氏
7 月 25 日(金)	経営環境の変化と中小企業経営	北海道大学 教　授　眞野　　脩氏
7 月 28 日(月)	現代の情勢をみるポイント　～グループ研究(1)～	北海道大学 教　授　森　　杲氏
単元Ⅱ　北　海　道　論		
8 月 1 日(金)	北海道経済の過去・現在・未来	北海道大学 教　授　山田　定市氏
8 月 4 日(月)	北海道の歴史　～近代からの歩みをたどる～	北海道大学 教　授　永井　秀夫氏
8 月 8 日(金)	もうひとつの北海道史　～北方少数民族について～	日本民族学会 会　員　田中　　了氏
8 月 11 日(月)	北海道の風土と文学	藤女子大学 教　授　小笠原　克氏
単元Ⅲ　経　営　と　法　律		
8 月 13 日(水)	日本国憲法と教育基本法を読む	弁護士　　郷路　征記氏
8 月 18 日(月)	債権の管理と回収(1)	弁護士　　向井　清利氏
8 月 22 日(金)	債権の管理と回収(2)	弁護士　　向井　清利氏
8 月 25 日(月)	労働法の基礎知識	弁護士　　伊藤　誠一氏
単元Ⅳ　経　営　分　析		
8 月 29 日(金)	経営分析の ABC	税理士　　上村　昭紀氏
9 月 1 日(月)	経営分析のすすめ方	税理士　　池脇　昭二氏

講義時間；18：00〜21：00

日　程	講　義　テ　ー　マ	講　師
9月5日(金)	危ない企業の見分け方	㈱帝国データバンク 札幌支店長　大宮　辰男氏
9月8日(月)	経営分析の事例研究　〜グループ研究(2)〜	税理士　池脇　昭二氏
単元Ⅴ　科　学　技　術　論		
9月12日(金)	科学と人間　〜自然科学の発展と人間生活〜	北海道大学 教　授　田中　一氏
9月16日(火)	社会の発展と技術の歴史	北海道大学 助教授　吉田　文和氏
9月17日(水)	バイオテクノロジーとは何か　〜現状と問題点〜	北海道大学 助教授　実吉　峰郎氏
9月22日(月)	コンピュータの基礎概念　〜情報化時代の対応〜	北海道大学 教　授　青木　由直氏
9月26日(金)	科学技術の発展と今日的課題　〜グループ研究(3)〜	北海道大学 助教授　赤石　義紀氏
単元Ⅵ　人　間　と　教　育		
9月29日(火)(ママ)	教育とは何か　〜社会と教育の歴史〜	北海道大学 教　授　竹田　正直氏
10月3日(金)	幹部に必要な現代のマナー	北海道同友会 事務局長　西谷　博明氏
10月6日(月)	人間と話し言葉　〜話し言葉の再確認〜	㈳北海道邦楽邦舞協会 事務局長（元アナウンスアカデミー所長） 平沢　秀和氏
10月9日(木)	部下をどう教育するか(1) 〜現代人の社会心理と組織の活かし方〜	北海学園大学 教　授　後藤　啓一氏
10月13日(月)	部下をどう教育するか(2) 〜目標と必達の社風をつくりあげるために〜	㈱共同印刷 社　長　木野口　功氏
10月17日(金)	〝知恵〟のある人間に育つために	札幌学院大学 教　授　方波見雅夫氏
総　括　講　義		
10月24日(金)	中小企業の未来と私たちの課題 〜同友大学で何を学んだか（グループ討論）〜	北海道同友会 専務理事　大久保尚孝氏

※　卒論の提出を課す

※　卒業式は　11月7日(金)

資料 4

答　　辞

同友会大学第 12 期生として名誉ある選考を受け，希望と感激に胸ふくらませて入学してから，早くも 4 ヶ月の月日が流れ，感動いまださめず，今日卒業式を迎えることとなりました。

ただいまは，ご臨席の皆様から心温まるご祝辞をいただきまして，誠に有難く心より御礼申しあげます。

かえりみますと，大学の厳しさは，十分承知いたしておりましたが，たかが 1 週間に 2 日であり，1 日 3 時間ではないかとひらきなおり，講義に臨みました。率直に申し上げますと，諸先生の講義中に睡魔におそわれたこともありました。しかし情熱あふれる講義にいつの間にか眠気も吹き飛び，引きこまれていきました。

ところが，レポートとなると，普段の勉強不足がたたって，活用する文献も生かしきれず，自分が描いたイメージとはほど遠く，まとまりのない内容となってしまいました。講義は 1 週間に 6 時間ですが，レポートは，その何倍もの時間を費やしても，思うにまかせないものでありました。

今，4 ヶ月の思い出が頭の中をかけめぐり，感慨をあらたにしているところであります。

私たちは本校において，現代とはどんな時代なのか，各単元の講義の中で学び，中小企業と，その中で働く幹部のありようについて考えさせられました。

複雑に変化する現代をたくましく生き抜くためには，人間としての総合的なレベルアップが大切だということを思いしらされました。まだまだ未熟ですが，今からでも遅くないので，気が付いたら始めることだという確信を深めております。同友会及び同友会大学がめざす教育方針にあらためて敬服する次第であります。

今後は，同友会大学に入校したことをきっかけとして，更に知識と教養を高め知恵を養い，社会に役立ち，企業の確かな戦力となることをめざす決意でございます。

最後に，卒業生一同に代わり，諸先生をはじめ，経営者の皆様，並びに同友会事務局の皆様，更に職場の方から温かいご指導，ご鞭撻を賜り，深く感謝しております。心から彼（ママ）礼申し上げまして答辞といたします。

1986 年 11 月 7 日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第 12 期生代表
北海道林友観光株式会社
長　尾　五　志

除雪機製作所の斎藤要次氏は，学卒後 30 年ぶりの同友会大学で，相当，参考書も読んだが卒業通知までは大変心配したが，通知がきて「感無量でした。これからは大学で学んだ事を生かし，社会発展のために頑張りたい」とのべていた。(注27) ㈱土屋ホームの羽田洋二氏は，高校，大学，同友会大学と夜間のみで 10 年余の学生生活を送り，仕事と学びの両立の難しさを述べ，「卒業しえたという自信のうえに，さらに自ら努力していきたい」と決意しており，頭の下がる思いである。(注28)

㈱和光繊維の石田洋子氏は，第 12 期受講生のなかで唯一の女性でしたが，開校式で必ず卒業と決意したが，大学のある日に，「今日は大学だね。がんばっておいで」と職場の人達から声を

かけられたことが大変なはげましであり，「さらに人の痛みを知ることの大切さがわかりました。私も後輩にうれしい一言をかけられるようになりたい」と，すでに共に育つ志を抱いてくれている。北海道紙工業材料㈱の磯田直孝氏は，「今夏家族にたいし何もできず，父の墓参にも行けませんでしたが，……今後何倍にもなって戻ってくるものを得たような気がします」と確信している。㈱札幌白衣の佐藤春雄氏は，受講して「社会とはこういうものと，原点から知らされ……企業とはこういうものかと，初めて中小企業の組織の一員となった思いもあり」自信がついたという。(注29)

答辞を述べたのは，北海道林友観光㈱の長尾五志氏であった。これまでの例からは，皆勤賞授与者の中で最も良い成績だった方と思われる。別に掲載するが，長尾氏は，はじめは，１週間２日，１日３時間でないかとひらきなおって参加したが，レポートの大変さや，幹部としての現代理解，「複雑に変化する現代をたくましく生き抜くためには，人間としての総合的なレベルアップが大切だということを思い知らされました。」これを契機に，更に知識と教養を高め知恵を養い，社会に役立ち，企業のたしかな戦力となることを目指すと決意している。(注30)

⑶　第 12 期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

関口功四郎同友会大学学長（シオン・樹脂工業㈱社長）の祝辞は，異例の厳しい内容であった。「残念ながら，12 期の皆さんは，100％実力を出しきっていなかったのではないでしょうか。つまり，周囲の期待に応えきろうとしていなかった。……まわりの人の期待に応えようとするプロセスの中で，人を思いやる暖かさ，人の痛みのわかる人，人の破れ口に立ってあげられる人間として育つことができると思います。……今日を一つの契機として，期待に応えきることを決断してください。」(注31)

関口学長が警鐘をならす背景に，社員教育委員会での討議と評価をもとに行なった西谷博明事務局長の以下の講評がある。西谷事務局長は，第 12 期生がこれまでの 12 期全体の中で，卒業率５位，皆勤率６位，レポートと卒論の平均点６位であり，皆勤賞以外の特別賞がなく，「これほどうまくまん中にまとまった期は，かってありませんでした。可もなく不可もなくというのが 12 期生の特徴でしょうか（笑い）。」平均点６位や努力賞もないことの原因として，卒論のテーマ「中小企業とそこで働く人々に対する期待と役割」を受講生が勝手に変えて，「我社が生き残るにはどうするか」のテーマで書いていたという。また，レポート全てを提出し，出席も 90％という受講生が，経済のレポートがテーマに全く答えておらず，教育委員会で「追試」の意見もあったが，「長い討議の末，本人・会社・同友会大学の将来のためにも厳しく対処すべきだという意見にまとまりました。」とのこと。上級幹部は，①情勢を全面的，本質的に捉えるモノサシ，②物事の正確かつポインの把握，③新しい歴史を創造する先駆者，の３つが求められると西谷氏は強調した。(注32)

北海道同友会石山博規代表理事（石山鉱業㈱社長）は，実に難しい仕事と勉学の両立という困難を乗り越えた事を讃え，「皆さんは知識と根性を養われたことと思います。これらを大いに

使って，会社や社会のために努力してください。また，自分の力をつける早道は友達を作ることだと思います。」と述べ，同期生の仲間とともに，同窓会でも仲間を作って欲しいと訴えた。

講師陣の祝辞では，北海道大学教授竹田正直が，この同友会大学で沢山の宝を得たが，その１つは，職場や家庭での尊敬の眼差しであり，２つ目は，人間を見る目の変化で，人間を全体的に見れるようになったことである。人間の肯定的側面で否定的な側面を教育することを，苫小牧の笠原紀久恵先生と松本正夫君の小１から２年のクラス実践を念頭に，子どもの，手際良さと高い運動能力を評価し，長期欠席を克服し，班長立候補への積極性を育てたことを話し，「全面的に人間を見つめること」という言葉を卒業生に贈った。

札幌学院大学方波見雅夫教授は，第12期卒業生の6割は35歳以上だが，35歳を過ぎると物忘れがはじまる。物忘れは，脳への血流の減少のために起こるのであり，20歳代には1分間70ccくらい脳へおくられるのが，65歳くらいでは50ccくらいに減少する。「ふだん勉強したり，本を読んだりしている人は，年をとっても若い人と血流量はほとんど変わらない」として，常に新しいことに興味をもって学ぶことと，みずみずしい感性を持ち続ける事を訴えました。

同友会大学岡村敏之同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱専務）は，「同窓会は仲間と共に学ぶ〝共育〟の場」として，卒業式はスタートの日と考えて欲しいと呼びかけ，「実は，私は，ここだけの話しですが，成績について特別賞は何もいただいておりません。（笑い）」と，受講生によりそい，「要は同友会大学で学んだ物の見方考え方をどのように発展させるかです。その機会を与えてくれるのが同窓会での交流なのです。」とし，①同期会を作り，年1回集まる，②同窓会の年2回の研修会参加，③同友会の講演会や研修会に出来るだけ参加する，の3点を訴えました。(注33)

石山同友会代表，竹田講師，方波見講師，岡村同窓会長の4人の祝辞は，夫々，個性的ではあるが，共通しているのは，両立の難しい日中の職場と夜間の授業とレポートの困難を乗り越えての卒業を祝し，今後への発展の道を温かく示していることである。関口学長と西谷事務局長とは，若干，トーンの違いを感じる。多分，このトータルなあり方が大切なのであろう。

おわりに～〝共育〟活動構造の検証の試み～

筆者が，本紀要の前号101号でも述べたが，北海道中小企業家同友会が，中同協第5回全国総会（愛知）で，社員教育を「共育」と提起したが，「共育」を，いつから，どういう経緯と意味で用い始めたかは未解明の課題である。竹田自身は，1964年12月25日公刊の雑誌論文で提起している。「教育は〝共育〟であり，教育の主人公は生徒である」と書き，〝共育〟は集団を教育する際のカナメともいえる概念であるとし，第1に集団の成員相互の訓育作用であり，第2に，教育者と教育を受けるものとの相互の訓育作用である，という2つの内実を有する概念としておよそ54年前から，つまり，中同協や北海道同友会の結成以前から用いている。本紀要の前号101号で，筆者が初めて提起した「共育活動」の構造を，第11，12期の同友会大学の活動と関連付けて検討する。

「１つには，「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには，第１に，講師と受講生との間の共育活動で，圧倒的には講師が教える活動であるが，受講生から講師が学ぶ活動もある。第２は，受講生同士の相互共育活動であり，授業中のみならず授業外での相互活動もある。第３は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と講師や受講生相互の共育活動である。２つには，「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには，第１に，受講生を送り出した企業での共育活動があり，第２は，受講生の家庭での共育活動であり，第３に，卒業後，全員が参加する同窓会での共育活動である。」(注34)

第11期と12期の資料でみると，「直接的共育活動」の講師からの学びは，各受講生の感想などで，「格調高く奥深い講義」，「〝知は力なり〟と言う事も教わり」，「講義内容の素晴らしさ」，「講義は，私の予想を見事裏切り，感銘の連続」，「わかりやすい言葉でやさしく熱心に講義」，「講義のすばらしさに感動，思わず涙がこぼれたほど」，「格調高い講義を受け」，「講義のたびに何とも言えぬ満足感を得」，「原点を知らされた思い」，「講義中に睡魔におそわれたこともありました。しかし情熱あふれる講義にいつしか眠気も吹き飛び引き込まれ」などが見られる。しかし，他方で，第９，10期にあったような受講生からの学びは，講師の挨拶に現れた限りでは，第11，12期はみあたらない。筆者自身は，つねに受講生に問いかけながら，あるいは，課題のグループ討議をしながら受講生参画型の授業をおこなっているので，毎回，受講生の回答や発言，疑問から学ぶことが多い。

「直接的共育活動」の第２の受講生同士の相互共育活動は，第11，12期ともに，活発に行われた。「いろいろな業種の人との出会い，グループ討議の中では多様な考え方を吸収し，尚かつ友達にもなれました。」（協和総合管理㈱伊藤喜英氏）(注35)「中小企業に働く仲間の連帯感……共に育ち合う同志として」，また，なかには，「おもわず仲間と飲みあかしたり」，ということもあった。第11，12期は，ともに，仲間意識，共に学び合う意識が評価された。これは，卒業者に対する「皆勤率」の高さにも反映しているといえる。第11期の皆勤率は，その時点でもトップであるが，今日，すでに卒業式が終えた第65回までをみても第１位であるし，第12期も65期中10位である。その点，受講生数に対する「卒業率」は，成績条件とともに，80％以上（24回以上）の出席，という条件があるので，企業の都合，とくに顧客対応などが影響しやすい。

第３は，学長，社員教育委員会，代表理事，事務局と講師や受講生相互の共育活動であり，第11，12期もこれは，大学運営側からの教育指導は十分見られた。特に教育委員会での厳しい評価があった。また，カリキュラム改革の努力が続けられており，とくに，第11期から新設され，第12期にも強化された単元Ⅱ，「北海道論」は，受講生の学びに強い積極性を呼び起こした。

「間接的共育活動」の第１は，受講生を送り出した企業での共育活動であり，「同友会大学に出席する部長に協力する体制が，社内に出来ていた。」(注36)，「卒業出来たのは，ほんとうに上司や職場の仲間のおかげ」，「会社の皆さんから，『今日は大学だね，頑張っておいで』と声をかけられた。」，以前あった，講義の翌日，社長に内容を報告したり，朝礼で報告といった事例は，

資料にはでてきていない。

第 2 は，受講生の家庭での共育活動であり，「家族をはじめ沢山の方々の協力」，「妻が時々本を開くようううに」，「受講が家族に対して大変良い影響を与え，家内も喜んでおります。」（㈱第１セントラルシステム大村幸雄氏）(注37)，「１年生の末娘に励まされて」，「私の書いたものを高校生の倅が読み」，「レポートを書いていると子どももノートを」と，家族の中での会話でも，「せなか」でも学びをもたらしていた。

「間接的共育活動」の第 3 に，卒業後，全員が参加する同窓会での共育活動である。この点では，第 11 期の，同窓会創立 5 周年記念教育講演会（講師：笠原紀久恵先生）を卒業前から受講生が実行委員会に参加して，610 名の入場者のうち 100 枚のチケットを販売して，卒業前から同窓会活動に協力したことは特筆に価する。第 12 期では，大西工業㈱の大西正美氏が，同友会大学で学んだ事を地域の鉄工団地にも伝えたいと「同友会大学丘珠分校」を企画したことである。これは，同窓会を超える地域での共育活動となる。

折しも，北海道同友会は，全道的にも教育活動，教育講演会が活発化してきていた。1986 年 10 月 23 日，旭川支部稚内地区会（会員 47 名）が，稚内文化ホールに 180 名を集めて教育講演会を行い，教育界のベストセラー『バラサン岬に吠えろ』の著者，厚岸水産高校両角憲二教諭を講師に「感動が人を変える～教育とは人間が人間にほれぬくこと～」をテーマに講演した。この本は，北海道同友会も協力して映画化された。

また，「秋の全道経営者〝共育〟交流会」が，10 月 18，19 日，十勝川温泉ホテル大平原で開催され，これも全道 9 支部から 181 名の経営者が参加した。講師は大阪同友会常任理事の中井政嗣氏（㈱千房社長）であった。このように，北海道同友会が全体として，社員共育活動を経営者会員が率先して取り組み成功させている状況のなかで，幹部養成の同友会大学が，年 2 回のペースで開催されていったのである。(注38)

第 11，12 期同友会大学の活動から，共育活動の構造について一定の検証が出来たが，資料の不十分さもあり，さらに今後の各期の分析の課題としたい。

注

（注 1 ）中小企業庁『平成 26 年経済センサス・基礎調査』（2016 年 1 月）で，調査年は 2014 年。一般社団法人北海道中小企業家同友会「2016 年合同入社式」資料，2016 年，11 頁。

（注 2 ）中小企業家同友会全国協議会（中同協）『中小企業家しんぶん』，第 1438 号，2018 年 6 月 5 日，１～16 面。

（注 3 ）竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育(7)」，北海学園大学開発研究所『開発論集』，第 101 号，2018 年 3 月刊，49～50 頁。

（注 4 ）『中小企業家しんぶん』，第 1438 号，前掲，11 面。

（注 5 ）西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 11 期生記録集，〝連帯〟』，北海道中企業家同友会社員教育委員会発行，1986 年 7 月，12～13 頁。

（注 6 ）前掲，７頁。引用文中の 1 字明けは，本文では行かえを意味する。

（注 7 ）北海道中企業家同友会発行『北海道同友会ニュース』。1985 年 11 月 30 日，１頁。

(注 8)『同友会大学第 11 期生記録集，〝連帯〞』，前掲同， 2 頁。
(注 9) 前掲同，15 頁。
(注 10) 同上，22 頁。
(注 11) 同上，28 頁。
(注 12) 同上，34，36 頁。
(注 13) 同上，77 頁。
(注 14) 同上， 1 頁。
(注 15) 同上， 8 〜11 頁。
(注 16) 同上， 2 頁。
(注 17)『北海道同友会ニュース』，前掲，1986 年 6 月 20 日， 1 〜 5 頁。
(注 18) 西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 12 期生記録集，〝知を力に〞』，北海道中企業家同友会社員教育委員会発行，1986 年 12 月， 6 頁。
(注 19) 前掲同，10〜11 頁。
(注 20) 前掲同， 2 頁。
(注 21) 前掲同，16 頁。
(注 22) 前掲同，19 頁。
(注 23) 前掲同，22 頁。
(注 24) 前掲同，26 頁。
(注 25) 前掲同，32 頁。
(注 26) 前掲同，34 頁。
(注 27) 前掲同，50 頁。
(注 28) 前掲同，53 頁。
(注 29) 前掲同，54，59，61 頁。
(注 30) 前掲同，63 頁。
(注 31) 前掲同， 1 頁。
(注 32) 前掲同， 2 頁。
(注 33) 円形同， 8 〜 9 頁。
(注 34) 竹田正直「集団主義教育の立場と今日的観点」，『ソビエト教育科学』第 23 号，1964 年 12 月 25 日刊，128〜133 頁。竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育(7)」，北海学園大学開発研究所『開発論集』，第 101 号，2018 年 3 月刊，49〜50 頁。
(注 35) 西谷博明事務局長責任編集『同友会大学第 11 期生記録集，〝連帯〞』，北海道中企業家同友会社員教育委員会発行，1986 年 7 月，36 頁。
(注 36) 前掲同，24 頁。
(注 37) 前掲同，69 頁。
(注 38)『北海道同友会ニュース』，前掲，1986 年 11 月 17 日， 1 〜 6 頁。